

農水省発表 食料自給率 横ばいの38%

農林水産省は7日、2022年度の食料自給率（概算値）がカロリーベースで38%となり、前年度と比べて横ばいだったと発表しました。ロシアによるウクライナ侵攻を背景に、政府は輸入に依存する穀物などの国内生産を強化していますが、20年度に記録した過去最低（37%）から大きく改善する兆しは見られませんでした。30年度に45%に引き上げる政府目標の達成は難しい状況です。

22年度は、前年度に豊作だっ

た小麦が平年並みとなったほか、水産物の漁獲量が減少した一方、原料の多くを輸入に頼る油脂類の消費が価格上昇で落ち込みました。品目別にみると、小麦が16%、大豆が25%、コメが99%。餌の原料の多くを輸入に頼る畜産物は17%でした。

生産額ベースの食料自給率は前年度比5%低下の58%となり過去最低。輸入量は前年度並みでしたが、穀物や飼料・肥料などの価格高騰、円安の影響で輸入額が膨らみました。